先進地の施策を学ぶ

総務文教委員会

「SDGSの推進と小中学校の統廃合」
三重県志摩市
令和4年11月17日

志摩市では、里海プロジェクトを従来から取り組んでおり、その活動を持続可能な海づくりとして拡大していきました。産官学連携や海洋プラスチック削減プロジェクト等を実施。今後は学校や老人会での講座など市内に啓発活動を進めていく予定。個人や企業ともパートナーシップを締結し、ケーブルテレビ等で紹介するなどしています。

学校の統廃合については、平成18年にアンケートを実施。翌年から志摩市学校再編検討委員会を設置し検討を進めました。平成21年2月に「志摩市立中学校再編提言書」を受け、計画を策定しました。

再編が一旦終了した現在は5町にそれぞれ小学校と中学校がある状態。反対意見等のため合意形成できなかった場合などは、数年かけて合意形成に至ったケースもあったとのことでした。最後に統合新設された東海小学校を見学しました。子ども達も元気に放課後を楽しんでいました。

▲東海小学校の視察の様子

建設福祉委員会

「民間と協力し空き家対策」
三重県伊賀市
令和4年10月21日

人口減少で適正に管理されずに放置されている空き家が問題となっています。

伊賀市は、第1次空き家対策計画で空き家の利活用と特定空き家などの指導強化を行い、平成16年度から4年間で空き家を18%減少させました。

第2次計画では、民間などとの協力で、所有者と移住者のニーズを把握。また、建築士協会、住宅建物取引業協会、不動産鑑定士会などの専門機関と協定を結び、ワンストップの窓口を設置。独立したホームページを作り、対象物件の情報や写真の掲載だけでなく、3Dバーチャル内覧や動画による物件紹介。農業委員会と連携し、家庭菜園などを希望する移住者が小規模農地を持つことを可能にするなど、独創的な取り組みを行っています。職員体制も7人(うち3人は、会計年度職員で建築士、元警察官など)と充実させています。

伊賀市は、住みたい田舎ランキング三重県総合1位、東海エリア総合6位です。空き家対策を街づくりにしっかりと位置付けて対策を行っています。

▲伊賀市での聞き取り

議会広報特別委員会

「タブレットを活用した編集と委員会放映」
愛知県長久手市
〃　尾張旭市
令和4年11月4日

長久手市議会では、議会だよりを入稿・編集・校正まで印刷は行わず、編集委員がタブレットを活用して作っています。

議会放映では、平成23年度から一般質問を録画配信、24年度からライブ配信を始め、今年度から、本会議全日程と委員会の録画・ライブ配信を予定しています。また、令和4年には、新型コロナウイルスの影響で意見交換会ができないため、市民アンケートに取り組んでいます。

長久手市は、ペーパーレス化の取り組みで、早くからタブレットの活用を検討し、議会の広報公聴の取り組みも全議員が広報部会か公聴部会に属して行い、積極的に進めているところが注目されます。

尾張旭市では、議会の複数会派から提案があり、議会運営委員会で協議、平成23年度から本会議の議会放映をライブと録画で配信しています。録画は2日後には配信しています。委員会の録画中継を協議しているとのことでした。

▲尾張旭市での聞き取り